

# 安保法「NO」続く模索

## 成立1年 市民ら集会

安全保障関連法の成立から1年がたった19日、安本法廃止を求める集会が大阪市西区の鞆公園であった。市民グループや労働組合の約5千人（主催者発表）が参加。「9月19日を忘れず声を上げ続ける」とする決議が読み上げられた。安本法に危機感を抱き、立ち上がった人々の模索は続く。

「参院選で改憲勢力が3分の2を超えた。でも、悲観も楽観もしている暇はない。何度でも、効果的な一手を打ち続けよう」

8月に解散した学生団体「SEALDs KANSAS AI」の中心メンバーだった神戸大学院博士課程の塩田潤さん(25)はこの日のスピーチで、安倍政権下で進む改憲の動きをけんせいした。集会後のデモで「野党はがんばれ」「民主主義って何だ」と久しぶりのコールをした。

シールズ関西は昨年5月に発足し、街頭に立ち続けた。「一人ひとりが考え行動すること」を大切にしていた。だが、メンバーには「何をやればいいかわから

## 「タブーにしたくない」



集会を開き安保関連法の廃止を訴える市民ら=19日午後、大阪市西区

なかった」「やり方を示すのが団体の役目では」と戸惑う声もあった。安本法廃止を訴える野党候補を応援した参院選では、組織政党との力の差も痛感した。

しかし、個人の緩やかなつながりだからこそ輪が広がったという手応えもある。「政治と日常を近づけられたと思う」と塩田さん。「数年で社会が変わる

で語りかけた。参院選後、会の名称を「子どもの未来を考えるママの会@大阪」に変えた。安本法に反対する署名集めや勉強会は続けるが、原発、保育所、学費、環太平洋経済連携協定(TPP)なども学び、問題提起していきたいという。

参院選でメンバーは大阪選挙区の民進、共産両党の候補からスピーチを頼まれた。だが、ためらいもあった。安本法反対は全員一致。でも、他の政策の議論を会の中で深めたことがなかった。選挙後、「政党に利用されたのかな」と、政党との距離感について意見が噴出した。

5歳の息子を育てる小林真知子さん(36)は民進候補の応援で2回マイクを握った。冷たい視線も感じたが、勇気を出してよかったと思う。「政治に関わるこ

とは思っていない。10年、20年と長いスパンで社会に働きかけたい」。10月末、他の市民と共にシンポジウムを開く予定だ。

昨年6月に結成された「安保関連法に反対するママの会@大阪」も集会に参加。生後6カ月の長男を抱いた安居裕子さん(36)が「安本法廃止のために前を向いて進まなきゃ」と壇上

とをタブーにしたくない。大切だと思ったことは自分で言いたい」と話す。東京・国会前でも19日、市民ら約2万3千人（主催者発表）が抗議デモをし、自衛隊の任務拡大などを批判した。（花屋真千子）

9/20  
T朝日